

全国学校図書館研究大会神戸大会（兵庫県教育委員会、全国学校図書館協議会他主催）に行ってきました。作家の岡田淳さんの講演、学校図書館支援センターの再考、中高一貫校での取り組みなど、これからの仕事の参考になることが学びました。何歳になっても学ぶことは、楽しいことでした。

次期学習指導要領の素案

8月1日に中央教育審議会教育課程部会教育課程企画特別部会で「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（素案）」が出されました。「『何を学ぶか』という指導内容の見直しに加えて、『どのように学ぶか』『何ができるようになるか』の視点から学習指導要領を改善」し、

- ① 生きて働く「知識・技能」の習得
- ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

の3つの柱と

- ① 学ぶ意味と自分の人生や社会の在り方を主体的に結びつけていく「主体的な学び」
- ② 多様な人との対話や先人の考え方（書物等）で考えを広げる「対話的な学び」
- ③ 各教科等で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする「深い学び」

という「アクティブラーニング」の視点からの学習過程の改善、各学校における「カリキュラムマネジメント」の実現などが示されました。

学校図書館の活用を各学校のカリキュラムに位置づけ、学校図書館を各教科等で計画的に活用することと、次期学習指導要領の目指す道は、同じです。

本資料は、文部科学省「教育課程部会教育課程企画特別部会（第19回）配付資料」（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/1375316.htm）で読むことができます。まだ読んでいない方は、ぜひ、目を通してください。

読書感想文集「けやき」の学校代表作品

各学校で読書感想文の指導が進んでいることと思います。学校代表の作品は、読書感想文集「けやき」に掲載されることに鑑み、誤字・脱字・文のねじれ等がないか確認し、人権や個人情報にも留意して期日までにご提出ください。

自由研究にみる指導の成果

夏休みに作った作品や自由研究等の作品展を行っている学校がたくさんあることでしょう。

自由研究では、課題設定の理由や参考資料が記されているでしょうか。レポート形式にまとめているものは、基本的な構成ができているでしょうか。複数の情報源で調べたり、比べたりできているでしょうか。

探究的な学習で、課題設定の理由を必ず書かせ、情報の活用の仕方、著作権と引用や資料リスト、レポートの書き方などを学習していくと上記のようなことが夏休みの自由研究に現れてきます。しかし、すぐには定着しないと思います。繰り返しの指導で徐々に定着させていきたいものです。その際には、学校図書館と学校図書館支援員による授業支援もご活用ください。